

2016年11月9日

AGC旭硝子、インドネシアで建築用ガラスの遮熱性能を高めるコーティング設備を新設 — 東南アジアで高まるビルの省エネ化ニーズに対応 —

AGC旭硝子（旭硝子株式会社、本社：東京、社長：島村琢哉）は、インドネシアの当社連結子会社アサヒマズ板硝子社（以下、AMG）のチカンベック工場に、建築用ガラスの遮熱性能を高めるコーティング加工設備を新設いたします。インドネシアはもとより、東南アジアで高まるビルの省エネ化ニーズに応えていきます。設備投資額は約40億円、生産能力は年間約600万㎡、2018年第2四半期から生産を開始する予定です。

東南アジアのガラス需要は、年率5%以上の成長が見込まれ、特にインドネシアでは国内の堅調な経済成長を背景として建築用および自動車用の需要が拡大しています。AMGは本年10月にジャカルタ工場の年産15万トンのフロートガラス生産窯を停止し、本年12月にはチカンベック工場で年産21万トンの最新鋭設備での商業生産を開始します。

建設ラッシュが続く東南アジアでは、燃料の輸入増加や電力不足などを背景として省エネ性向上が課題となっており、インドネシア政府は年間を通じて冷房を使用するビルなど大型建築物での省エネ化政策を推進しています。遮熱性能を高めるLow-E膜付きガラスは、冷房効率を高め、使用エネルギー量削減のための解決策の一つとして需要が急速に高まっています。

こうした状況を踏まえ、当社はフロートガラスの生産拡大に加えて、最新鋭のスパッタリング法によるオフラインコーティング加工設備の新設を決定しました。Low-E膜をコーティングすることにより、高い可視光透過率を維持しながら、遮熱性能、断熱性能の両面を向上させた省エネ化製品のラインナップを拡充していきます。当該地域のお客様に、建物の必要性能、デザインなどの多様なニーズに合った製品を提供し、エネルギー消費削減に大きく貢献していきます。

AGCグループは経営方針 *AGC plus* の下、今後も新興市場において拡大する需要を着実に取り込み、市場ニーズに合わせた高付加価値品を提供することで成長基盤の強化・定着を図ります。

以上

◎本件に関するお問い合わせ先：

AGC 旭硝子 経営企画部 広報・IR 室長 小林 純一

（担当：宮川 TEL: 03-3218-5603 E-mail: info-pr@agc.com）

<ご参考>

アサヒマス板硝子社

1. 社名 アサヒマス板硝子株式会社
2. 代表者 武井 健夫
3. 本社所在地 インドネシア、ジャカルタ
4. 資本金 2,170億ルピア
5. 出資比率 AGC43.9%（当社連結子会社）
Rodamas※40.8%、その他15.3%
※現地パートナー
6. 設立 1971年
7. 生産品目 建築用ガラス、建築用加工ガラス（2018年第2四半期予定）
自動車用素板ガラス、自動車用加工ガラス、
産業用ガラス、ミラー
8. 生産能力 フロートガラス・63万トン／年
コーティング加工設備・600万㎡／年（2018年第2四半期予定）
9. 生産拠点



以上

◎本件に関するお問い合わせ先：

AGC 旭硝子 経営企画部 広報・IR 室長 小林 純一

（担当：宮川 TEL: 03-3218-5603 E-mail: info-pr@agc.com）